

平成27年度 継続被災地支援活動「福島県への継続文化支援活動」報告

【福島応援人形劇公演 Part 1】

- 1) 日程 平成27年9月16日(水)～21日(月・祝)
- 2) 場所 平日は、福島市の保育園や児童養護施設など7ヶ所、および天栄村幼稚園にて人形劇公演を実施。土日には福島市子どもの夢を育む施設こむこむにて、大型人形劇の公演を実施。川俣町、郡山市、南相馬市において事業支援団体および行政担当者との打ち合わせ。
- 3) 参加劇団 人形劇団ブルスタ(1名)、人形劇団ボクラ(1名)、人形劇団ぱぺっとグース(3名)、人形劇団ばおばぶ(2名)、人形劇団ぽっけ(3名)、劇場スタッフ(3名)
- 4) 公演記録
ブルスタ&野良犬

月/日(曜)	開演時間	会場	公演プログラム	観客数
9/18(金)	10:00	天栄村幼稚園 岩瀬郡天栄村大字白子字小金壇14	人形劇 「ゆらゆらばしのうえて」 パネルシアター 「カレーライス」 背負子人形劇 「千匹オオカミ」ほか	237名 (小106、 大人131)

ボクラ&ぱぺっとグース

月/日(曜)	開演時間	会場	公演プログラム	観客数
9/17(木)	15:00	さくらんぼ保育園 福島市野田町5丁目4-50	人形劇 「三びきのこぶた」 「おー!うんこ」 パネルシアター・腹話術	134名 (子109、 大人25)
9/18(金)	10:00	福島市立森合幼稚園 福島市森合字谷地3-2	人形劇 「三びきのこぶた」 「おー!うんこ」 パネルシアター・腹話術	134名 (子53、 大人81)
	15:00	あゆみ保育園 福島市南矢野目字中屋敷62-1	人形劇 「三びきのこぶた」 「おー!うんこ」 パネルシアター・腹話術	114名 (子91、 大人23)
9/19(土)	13:00	佐原地区集会所 福島市佐原字田中前2-6	人形劇 「三びきのこぶた」 「おー!うんこ」 パネルシアター・腹話術	23名 (子12、 大人11)

ばおばぶ&ぽっけ

月/日(曜)	開演時間	会場	公演プログラム	観客数
9/17(木)	15:00	さくらんぼ森合保育園 福島市森合字上森合23-9	人形劇 「ねずみくんのチョコキ」 音楽人形劇 「はらぺこあおむし」 紙芝居人形劇 「さるとかに」	105名 (子100、 大人5)
9/18(金)	11:00	みんなの家 福島市笹谷字清水14-12	人形劇 「ねずみくんのチョコキ」 音楽人形劇 「はらぺこあおむし」 紙芝居人形劇 「さるとかに」	25名 (子10、 大人15)
	15:30			37名 (子16、 大人21)
9/19(土)	10:00	社会福祉法人 児童養護施設青葉学園 福島市土船字新林24番地	人形劇 「ねずみくんのチョコキ」 音楽人形劇 「はらぺこあおむし」 紙芝居人形劇 「さるとかに」	25名 (子19、 大人6)

ジャック組

月/日(曜)	開演時間	会場	公演プログラム	観客数
9/20(日)	11:00	福島市子どもの夢を育む施設こむこむ (わいわいホール) 福島市早稲町1番1号	人形劇 「ジャックと豆の木」	290名
	14:00			290名

5) 写真で見る公演及び調査記録

ブルスタ&野良犬

①天栄村幼稚園



- 天栄村唯一の天栄幼稚園は、3つの地域からこどもたちが集まるとても大きな幼稚園。
- 祖父母参観日で、こどもよりもおじいちゃんおばあちゃんなどの大人の方が多かった。こどもたちの反応はもちろんだが、大人の反応もすごく感じられた。
- 終演後片付けをしている時も、外からたくさんのおじいちゃんおばあちゃんなどが手を振って声をかけてくれたり、先生方もすごく喜んでくれた。

ボクラ&ぱべっとグース

①さくらんぼ保育園



- 準備段階から覗き見する子が多く、興味の高さを感じた。
- 観劇中も、こども達の声で劇団のセリフが聞こえない部分があるほど盛り上がっていた。
- お迎えに来ていた保護者も一緒に観劇できて喜んでいました。

②森合幼稚園



- 父兄参加日で、園児と同じくらい大人が観劇してくれた。
- 劇が始まると、こどもも大人も見入っており、素直な反応も多く見られた。
- 職員も楽しめたようで、「こういう機会が増えると良いな」と口々に言っていた。

③あゆみ保育園



- 施設内に水族館を作るなど、様々な工夫をして子どものための取り組みをしていた。
- はじめは静かな雰囲気だったが、劇が始まると笑い声やツッコミなどが多く出てきた。
- 年長のクラスからプレゼントをもらい、劇団側も喜んでた。

④佐原地区集会所



- 参加人数はあまり多くは無かったが、子どもも大人も一緒になって楽しんでいた。特に大人の反応が大きかったように感じた。
- 公演後、子どもたちからバックステージツアーを希望され、少しの時間ではあるが舞台裏を見てもらった。
- 直前のカレーパーティーに招待され、一緒に食べたことで劇団と子ども達との距離が近づき、公演時の反応の良さに繋がったと感じる。

ばおばぶ&ぼっけ

①さくらんぼ森合保育園



- ハンドパペットをプレゼントしたら、こどもたちからもプレゼントが！
- 先生に書いてもらったアンケートに、演じ方や話し方などが保育士としても参考になったとの声も。

②みんなの家



③青葉学園



- 上演後も人形劇にでてきた歌をくちずさんだり、舞台裏を見て、さわったりして楽しめた様子。

ジャック組

①こむこむ





- 午前も午後も定員いっぱいの290名の方が来場した。満員で入れなかった方もいて少し残念。
- 公演は大好評で終わることができた。終演後の「また来年も会いましょう」の影アナウンスには拍手がわきあがるほどであった。
- 来場者の中には、今回の支援活動で行った保育園の先生であつたり、いつもお世話になっている方が多くみられた。こうして、毎年福島の各施設で公演ができているのもそういった方々のおかげである。今まで出会った人々、今回新たに出会った人々、たくさんのつながりを実感できた。そのつながりによって、どんどんと可能性も広がっている。感謝の気持ちを忘れず、つながりを大切に、福島のこどもたちへの支援を継続していきたい。

その他



- 川俣町にある川俣高校機械科2年生の授業に訪問。hand to hand project kawamata 代表である今泉さんの息子さんが通うクラスで、今年の学校祭で人形劇をするというお話が。簡単な人形の構造や学校祭に向けたグループ決めなどを行った。学生たちは素直で、とても興味深く話を聞いたり、人形をさわっていた。20日(日)には、こむこむの上演を観に来てくれ、バックヤードを案内した。男子22名の人形劇が楽しみである。



- 打ち合わせのため、南相馬市へ向かう道中、たくさんの黒い袋が目に入った。除染後の土壤が入った袋であり、何段にも積み重なった光景は異様であった。今回の支援活動の何週間前の大雨の影響で、「袋が流され中の土壤があふれ出ている…」とニュースになったまさにその場所である。ここは、飯舘村で現在も避難区域になり、人は住んでいない。しかし、30分ほど車を走らせればすぐに南相馬市や川俣町といったこどもも多く住む地域である。線量計もなければ、除染作業員の姿も作業着一枚にマスクだけ。震災から4年経っているはずの福島にただただ衝撃を受け、なぜ…と思うばかりであった。
- 今回、福島市内で公演をまわっていると気づけない部分をたくさん目にすることができた。これは、毎年福島に支援に行っているものであれば知っておかなければいけないことであると思う。この時感じたことや目にしたものを札幌から絶えず発信していくことが私たちの役目である。福島のコディネーターの方からも、「声には出さなくとも、みんな不安な気持ちは持っていると思う。そんな中、報告写真に写るこどもの笑顔を見て、いまのこどもたちや大人にとってもこういった文化的な支援は必要だと思う」という声をいただいた。11月の支援活動から、地域交流イベントを設け、工作など来場者とより近く交流する場も多くなる。今後も、少しでも心を安らげる、心から笑える、そんな機会を多くつくっていかれたらと思う。